

空手道部

1951年に創部した「空手道部」。
2020年で70周年を迎えた伝統ある
団体です。全国レベルで目覚ましい成績を
収め、文武両道の姿勢が大学からも
高く評価されています。

2019年は全国大会の個人戦で優勝！ コロナ禍もリモート活動で団結

体育会きっての歴史をもつ「空手道部」は、全国的な大会で活躍する選手を数多く輩出しています。そうした歴史があるため、師範だけでなくOBの熱心な指導も伝統的。副部長の近藤光史郎君は、強豪が揃う関東大学1部リーグで戦い続けていることも自慢と言います。「OBの方々から、一度2部に落ちると、入れ替え戦のルール上、昇格が非常に難しい。1部残留は絶対だと、教えられてきました。一番の目標である全国大学空手道選手権大会には、1部リーグの関東大会を勝ち上がらないと出場できず、僕達の世代で落ちるわけにはいかない。だからハードな練習に励むことができます」。

2019年の成績を振り返っても優秀です。所属流派である国際松濤館空手道連盟主催の全国空手道選手権大会では、団体戦で3位。また、取材時には不在でしたが、階級別個人戦では柴田創平君(工学部 建築学科2年)が優勝、中島健人君(メディア情報学部 情報システム学科2年)が準優勝、亀川倫太郎君(工学部 建築学科2年)が3位と、輝かしい成績を残しました。また個々の活動では、副部長の山岸航大君が昨年2月



メディア情報学部
社会メディア学科
3年・副部長
山岸 航大君

工学部 機械工学科
3年・副部長
近藤 光史郎君

都市生活学部
都市生活学科
3年・部長
李 宥英君

工学部
医用工学科 3年
鈴木 怜佳さん

から9月までアメリカ・マイアミ州に空手留学を行うなど、一人一人の志の高さも目を見張るものがあります。

しかし昨年はコロナ禍により大会どころか、3月から空手道部の活動が休止。部長の李 宥英君がその頃を振り返りました。「空手のない生活が当たり前になるのが辛かった。部員の空手離れも感じました。でもこのままではいけない、団結しなければ、5月に入ってZoomを使ってミーティングを行いました。そこで話し合って、まずは国際松濤館監修の動画を参考に個人練習を再開。さらに各個人でランニング、筋トレ、相手を想定した動きの練習を行い、LINEやFacebookを使って、皆で練習報告をるところまで活動を再開できました」。とはいえ個人でできることには限界があります。空手道部一、稽古熱心だという鈴木怜佳さんのように、「道場で思い切り稽古をしたい…」と、思いが募る人も多かったとか。待望の全体練習再開は、10月まで待つ必要がありました。



全員参加の全体練習は週に2回、2時間に集中して稽古を行っています



2019年国際松濤館連盟主催の全国空手道選手権大会、表彰後の記念撮影